



**Data**

監督: カリン・クサマ

出演: ニコール・キッドマン/セバ  
 スチャン・スタン/トビー・  
 ケベル/タチアナ・マズラニ  
 ー/ブラッドリー・ウィット  
 フォード/ジェイド・ベティ  
 ジョン/スクート・マクネイ  
 リー/トビー・ハス/ザッ  
 ク・ビーヤ/ジェームズ・ジ  
 ョーダン/ポー・ナップ/シ  
 ヤミア・アンダーソン

## 👁️👁️ みどころ

『モンスター』(03年)でシャーリーズ・セロンが魅せた汚れ役に続いて、ニコール・キッドマンが、体重はそのままながら特殊メイクで汚れ役に挑戦！ハリウッド映画では一匹狼のはぐれ刑事役が人気だが、この女刑事の落ちぶれようはひどい。その心のキズは17年前の潜入捜査によるものだが……。

警察では、個人プレーは厳禁だが、この女刑事は何でもあり！ハチャメチャ捜査で目指すのは“あの男”との決着(ケリ)だが、ラストに訪れるそのシーンは……？

こんなニコール・キッドマン見たことない！“逆は必ずしも真ならず。”しかし美女は汚れ役もOKだ。

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

### ■□■逆は必ずしも真ならず。だが美女は“汚れ役”もOK！■□■

私の独断と偏見によれば、“ハリウッド・ビューティー”の代表はシャーリーズ・セロンとニコール・キッドマン。その一方の旗頭シャーリーズ・セロンが、13kg以上も体重を増やし、「モンスター」と呼ばれる汚れ役に挑戦した映画『モンスター』(03年)、『シネマ6』238頁)には驚かされた。他方、近時、『The Beguiled/ビガイルド 欲望の目覚め』(17年)、『シネマ41』181頁)、『聖なる鹿殺し キリング・オブ・ア・セイクリッド・ディア』(17年)、『シネマ41』184頁)等に出演している、もう一方の旗頭、ニコール・キッドマンが特殊メイクを施し、憔悴しきったLA市警の女刑事と言う“汚れ役”に挑戦したのが本作だ。

といっても、体重は変わらずスリムなまま。しかし、全編通じて黒のレザージャケット一着で通したのは、決して衣装代をケチったためではなく、17年前の潜入捜査で深い傷を負ったまま落ちぶれてしまった刑事役を徹底するためだ。

本作冒頭、陽光眩しいロサンゼルスの高ウェイに停められた車の運転席で女が目を開けるシーンがアップで登場するが、このエリン・ベル役を“ハリウッド・ビューティー”ニコール・キッドマンが演じているとは誰もわからないだろう。他方、本作は現実と回想シーンをクロスさせてストーリーが進んでいくため、ニコール・キッドマンは17年前のピチピチ時代の若い捜査官役も演じているから、その落差にビックリ。なるほど、シャーリーズ・セロンに続いてこんなニコール・キッドマンを見ていると美女はこんな“汚れ役”もできるものと納得。もっとも、「逆は必ずしも真ならず」と言うことも念のため・・・。

## ■□■こんな新米に潜入捜査を？女の武器の活用は？■□■

潜入捜査モノの代表作は『インファナル・アフェア』3部作（『シネマ3』79頁）、『シネマ5』333頁）、（『シネマ5』336頁）、（『シネマ7』223頁『シネマ17』48頁）だが、黒人警官が白人至上主義を掲げる秘密結社KKKに潜入するという、とんでもなく面白い「潜入捜査モノ」が第91回アカデミー脚色賞を受賞した『ブラック・グランズマン』（18年）（『シネマ43』18頁）だった。

そんな本格的な「潜入捜査モノ」に比べると、今から17年前の新米刑事だったエリンが、相棒のクリス（セバスチャン・スタン）と共にサイラス（トビー・ケベル）率いる犯罪組織に潜入する回想シーンはいささか迫力不足だ。サイラスがエリンの美貌に目を向けたのは当然だが、それに対してエリンはいかに女の武器を活用するの？そんな点にも興味津々だが、人の心理を読むことに長けたサイラスは、仲間達と同じようにクリスやエリンの腹の中を探っていたらしい。本作はセリフ劇でなく心理劇の面が強いのでサイラスらが銀行強盗に及ぶ際、クリスとエリンがそれに協力するふりをしながらサイラスらを一網打尽にするというシナリオの展開は読みにくい。そしてまた、その展開が予測通りにいかなかったのも仕方ない。そのため、そこでエリンが起こした取り返しのつかないミスによって、サイラスは逃亡し、事件は迷宮入りになったわけだ。これが新米女刑事だけのミスなのか？それとも、そんな人事配置をしたLA市警上層部のミスなのかの判断は難しいが、それは本作のテーマではない。冒頭から一貫して強調されるのは、そこで負った心の傷に17年間苛まれながらLA市警での勤務を続けてきたエリンの苦悩とその落ちぶれぶりだ。

しかして本作導入部では①エリンがある殺人事件で見た38口径の拳銃と強盗対策用の紫の染料に染まった紙幣、そして②LA市警のエリンに宛てた差出人不明の私信に入っていた紫に染まった紙幣を目にしたエリンは、“ある確信”を持つことに。それは、あのサイラスが再びLAに戻ったというメッセージに違いないという確信だが・・・。

## ■□■警察では個人プレーは厳禁！ところが・・・■□■

『ブラック・グランズマン』で見た潜入捜査官は、コロラド州のスプリング警察に応募して採用された黒人で、「ニガーと差別されても我慢できるか？」の質問にも「必要であれば・・・」と答えるとともに、黒人英語と白人英語を完璧に使い分けることができる男だった。同作では、黒人警官とコンビを組む一人の白人警官との相性が抜群だった上、スプ

リング警察上層部へのハウレンソウ（報告・連絡・相談）がしっかりできていたのがお見事だった。

しかし、本作中盤から後半にかけては、サイラスの情報を集めるため一人で動き回るエリンの、ハチャメチャな単独捜査が展開されるのでそれに注目。その第1は、サイラスの犯罪組織の一員であったトビー（ジェームズ・ジョーダン）とアルトゥーロ（ザック・ヴィリヤ）の消息を追うこと。第2は、サイラスの違法な金の資金洗浄に関わっている弁護士ディフランコ（ブラッドリー・ウィットフォード）を追うこと。第3は、互いに変わり果てた姿でのサイラスの資金係で愛人でもあった女・ペトラ（タチアナ・マズラニー）との再会だ。これらのストーリーが展開していく中、エリンは何度も殴られたり出血したりするが、度重なるそれらの試練にも負けず、一步また一步サイラスに近づいていくことに・・・。

### ■□■エリンの結婚と離婚は？一人娘の育て方は？■□■

1980年に歌手デビューした松田聖子はアイドルの枠を越えた大歌手に成長したが、1986年生まれの一娘・神田沙也加も、母親と同じような大歌手に成長している。しかしすべてが「カエルの子はカエル」になるわけではなく、失意の中で結婚、出産、離婚をしたエリンの16歳の一娘・シェルビー（ジェイド・ペティジョン）は今、別れた夫イーサン（スクート・マクネイリー）の下で養育されているらしい。そして、母親の目から見れば、恋人のジェイ（ポー・ナップ）と夜遊びしたり熱いキスを交わすのは許せないらしい。そのため、孤独で過酷なサイラス捜しの合間には、この母娘の話し合いが持たれるが、二人がうまく折り合えないのは当然だ。

本作を監督したのは、日系女性のカリン・クサマ。パンフレットのイントロダクションには「鬼オクサマが描くLAノワールの衝撃作」と謳われ、「善悪の境界線上で身も心も引き裂かれる一人の女性の過酷な運命を描いている」と書かれている。そんな女性監督の演出なればこそ、17年ぶりに再会したエリンとペトラの女同士の壮絶な絡みを描く演出が面白い上、エリンとシェルビーとの母娘のすれ違いを描く演出も面白い。松田聖子と神田沙也加の仲が今どうなっているかは知らないが、さて、本作ラストに向けてエリンとシェルビーの仲は如何に・・・？

### ■□■サイラスとの決着（ケリ）は？スノーのラストは？■□■

本作は最初から最後までニコール・キッドマンの変貌ぶりを強調するために、カリン監督が造った映画という感が強い。そのため、ラストに想定されている、エリンの17年間の決着（ケリ）をつけるためのサイラスとの再会というクライマックスがどうなるかが最大のポイントになる。しかし、そのクライマックスは私にはいささか拍子抜けの感も・・・。というより、冒頭に見た、紫に染まった紙幣をエリンに送り付けることによって、そもそもサイラスは何のメッセージを伝えたかったのかが曖昧な気がする。エリンにとっては、サイラスからそんなメッセージが届いたことによって、「あと、一つやり残したことがあ

る・・・。」という思いに集中することができたわけだが・・・。

そんなエリンだから、愛する娘・シェルビーを守るためなら命などいらぬ。また、サイラスを追いつめケリをつけるためなら、LA市警などいつクビになっても構わない。さらに、サイラスを追いかける途中で誰かに殺されても仕方ない、むしろ、それは本望だ。そんな居直りの気持ちで根性が座っているから、エリンは強い。しかして、本作ラストに見るエリンとサイラスの決着（ケリ）は？

### ■□■スノボーを登場させたラストシーンの味わいは？■□■

本作は、一人で車の助手席に座って監視を続けているエリンの姿が印象的だが、同時に冒頭のそれは、LAの陽光のまぶしさが印象的。運転席に座るエリンの姿はその後にも再三登場するが、ロスでもニューヨークでも、ハイウェイの下ではガキ（不良少年？）たちがスケボーで遊んでいる風景がよく似合う・・・？彼らが日々練習し、習得しようとしているスケボーの技術はかなり高等だから、大人たちは到底まねできないレベルだ。クルクルと回転するスケボーにガキの足が見事に着地する様は、まるで体操競技で見事にキマった着地と同じような快感がある。もちろん、それはストーリー展開に何ら関係するものではないが・・・。

カリン監督が本作ラストに登場させるのはそんなスケボーのシーンだから、それにしっかり注目したい。そしてこの時、車の運転席で自分の腹を押さえながら何かを見つめ続けているエリンの状態は・・・？

2020（令和2）年10月28日記